

メディアコミュニケーション学演習Ⅱ B 1 # B

担当者	荒川 雪(アラカワ ユキ)				
年度	2021	授業コード	1540106001	科目ナンバリング	
対象年次	3~4	授業形態	演習	単位数	2
時間割	秋火3	開講キャンパス	白山	教室	6 2 1 2 教室
主たる使用言語	日本語		実務教員科目		
授業科目区分					
授業回数					
受講対象学科					

【サブタイトル】

メディア史、世界のメディア、メディア研究の基本的技法、ゼミ論の作成

【講義の目的・内容】

本演習は、メディア史、世界のメディア、とくに新聞や雑誌などの報道や発展の歴史についての研究能力を高め、ゼミ生全員が自分の力でゼミ論を完成できる能力を養う。そして、4年ゼミもぜひ履修してもらい、ゼミ論、卒論の完成を目指してもらいたい。

今日インターネットの発展によって、伝統メディアへの注目が低下している。しかし、インターネットやSNSなどの発展は、これまでの伝統メディアの発展の延長線上にあり、今日のメディアの情况及び今後のメディアの発展を理解するためにメディアの歴史、伝統メディアの発展、世界各国のメディアの違いについての理解が重要である。本演習は、春学期、教科書や関連論文、書籍の輪読を通じて、メディア研究の基礎を習得し、ゼミ論の執筆のための研究構想を発表し、研究計画書を完成できるようにする。秋学期では、個人研究についての発表を重ね、教員及び他のゼミ生の意見を参考しながら、ゼミ論を完成させる。

【学修到達目標】

1. メディア研究の基礎知識、技能を養う。
2. メディア史、世界のメディアの発展の過程に関する知識を備える
3. 履修者は自分の興味に基づき、個人研究のテーマを見つけ、関連史資料を収集し、研究構想を発表し、研究計画書を作成することができるようになる。
4. 学術的研究の進め方が理解できるようになる。
5. 独自にゼミ論（2-2.5万字）を完成できるようになる。

【講義スケジュール】

- 第1回 オリエンテーション（夏休みの課題の提出、春学期の研究計画書の修正版の提出、秋学期の輪読の文献担当を決める）（オンライン）
- 第2回 論文講読発表①（オンライン）
- 第3回 論文講読発表②（教室）
- 第4回 論文講読発表③（オンライン）
- 第5回 個人研究の中間発表①（教室）
- 第6回 個人研究の中間発表②（オンライン）
- 第7回 個人研究の中間発表③（教室）
- 第8回 論文講読発表④（オンライン）
- 第9回 論文講読発表⑤（教室）
- 第10回 個人研究の最終発表①（オンライン）
- 第11回 個人研究の最終発表②（教室）
- 第12回 個人研究の最終発表③（オンライン）
- 第13回 個人研究の最終発表④（教室）
- 第14回 ゼミ論の仮提出と個別指導（オンライン）
- 第15回 ゼミ論の提出と個別指導（教室）

※受講生の人数、進み具合によって、スケジュールは変更することがある。

【指導方法】

本演習は教室での対面授業とWebex Meetingを使うオンライン授業を隔週で実施する。大学の規定による個別の事情で教室の対面授業に出席できない場合、Webex Meetingを使つてのオンライン参加も可能である。

1. 演習科目はゼミ生の積極的な参加が必須であるため、毎回の授業は必ず教室あるいはオンライン上で出席すること。
2. 個人発表を通じて、メディア研究の基本技能を養ってもらい、プレゼンテーション能力を向上してもらう。
3. 個人研究を通じて、自分の興味のあるテーマを見つけてもらい、そのテーマに関する史資料調査の方法を個別に指導し、ゼミ生には春学期研究計画書、秋学期にはゼミ論を独自に完成できるように指導する。

【事前・事後学修】

履修者には、輪読の内容やほかの学生の研究発表の内容についてのコメントや質問ができるように、教科書やToyoNet-ACEを通じて事

前に配布した資料を読んでから参加してもらおう。個人研究に関しては、史資料調査や発表準備をきちんと行うこと。毎回授業の後、しっかり復習し、教員の講義やほかの学生の報告に対する質問・コメントを必ず提出してもらおう。また授業時に教員が指示した課題についても必ず締め切りまで提出してもらおう。事前事後学習は毎週3時間程度必要。

【成績評価の方法・基準】

授業参加度（出席、討論など） 10%

文献購読発表 20%

個人研究発表 30%

提出課題 40%

原則、欠席は認めない。3回の遅刻で欠席1回分にカウントする。

特別な理由がない欠席が授業回数数の3分の1を超えた場合は成績評価の対象にならない。

★成績評価は東洋大学の成績評価の基準に準拠する。

【受講要件】

メディアコミュニケーション学演習ⅡA・Bは同一コースを選択しなければならない。

メディア史、世界のメディアに関する研究に興味がある学生ならだれでも参加できる。ただし、毎回の授業にしっかり参加し、教員が要求する発表や提出課題をしっかり取り組むことが必須である。4年次にメディアコミュニケーション学演習ⅢA・B（荒川雪コース）を履修し、ゼミ論あるいは卒業論文を完成させることを目指してほしい。

【テキスト】

藤田真文編著『メディアの卒論——テーマ・方法・実際』（第2版）ミネルヴァ書房、2016年、3200円+税

【参考書】

橋元良明『メディアと日本人——変わりゆく日常』岩波新書、2011年。

佐藤卓己『現代メディア史 新版』（岩波テキストボックス）岩波書店、2018年。

【関連分野・関連科目】

メディアコミュニケーション学基礎演習A・B、メディアコミュニケーション学演習ⅠA・B、メディアコミュニケーション学演習ⅡA

【備考】

ゼミ（演習）は、教員の指導以外に、履修者同士から得られるコメントやアドバイスも重要である。履修生がお互いに協力して研究を進めてほしい。

【添付ファイル1】

【添付ファイル2】

【添付ファイル3】

【リンク】